

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



国民健康保険収支と、住民負担の限界

今回の一般質問で、国民健康保険収支と住民負担の限界を尋ねました。国民健康保険の収支が赤字だと何度も聞かされている。(20年度で20億円を市税投入)税金で補填されるのは納得できないという考えは、当然のことであろう。そのために、毎年、国民健康保険税が値上げになっているが、果たして、限界がきていないか、懸念が生じている。と言うものでした。

町田市は国保が都道府県単位レベルに移行したことに合わせ、27年度まで市税負担を13.3億円、32年度にゼロにする計画を発表しています。その達成の内訳は明らかにされておらず、そのために、次の4つの手法の重点順、減額内訳を問いました。1最高負担額の増額、2医療費の削減(ジェネリック医薬品の拡充)、3健康促進事業の拡充、4その他の施策(軽減措置の縮小)でした。答弁は曖昧でしたが、国保税の最高負担額が100万円を越した状態が維持されるとは思えません。極度の軽減措置が拡大実施される中、そのあり方自身の見直し、ジェネリック医薬品の必須化も必要だと考えました。



市議会の代表質疑の内容説明

代表質疑での発言は大会派順に行われるので、「無所属」(3名)の会派のように、小会派ほど後の発言となります。よって、小会派においては、大会派と同じ質疑を行っては存在価値が薄まるので、他に問わなかった項目を推定して選考し、あるいは事前通告した範囲の中で新たな視点からの質疑でなければなりません。



無所属会派議員3名とインターン生

まず、町田の街づくりを問う質疑が目立ちました。特に、モノレール延伸を問うもの、あるいは中心市街地の発展を問うものが目立ちました。次に、子ども世代の育成に関する質疑が件数では目立ちました。東京都が設置する児童相談所の見込みや目的を問うもの、あるいは学校配置の再編を問うものが賛否の対称性を含めて目立ちました。新たに事業をスタートしようという中学校給食の建設内容を問うものも目立ちました。「(仮称)子どもにやさしいまち条例」の目的や趣旨を問うものも特徴的でした。

福祉の分野では、「地域福祉コーディネーター」の役割、位置づけが問われました。また、世相的に「パートナーシップ制度」の話題がその推進の立場から質疑がありました。

市長が推進する芹ヶ谷公園に(仮称)国際工芸美術館を中心とした、その公園の「芸術の杜」構想を問う質疑がそれぞれの立場から行われました。

行政のデジタル化の進展を、その推進の立場から多数が問うものでした。

- ◎所属会派の名称はシンプルに「無所属」とし、3名の議員で構成しています。
- 支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。
- 吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、間もなく第50期生がスタート

水耕栽培メロンの全国品評会を実施すべき

今期の一般質問で、このメロン水耕栽培法(町田式新農法:特許)の普及によるメロン栽培産地拡大が進めば、町田市がその水耕栽培メロンの全国品評会を実施促進するべきではないかと問いました。

つがる市東京事務所、アンテナショップ



答弁によれば、商工会議所などによる、キラリまちだ祭(農業祭&産業フェスティバル)町田産農産物の品評会を実施しており、その中での可能性を説明を受けました。私の見地では、産物やシステムで町田市が全国一と言えるものが見当たらず、まさに、この水耕栽培システム(町田式新農法)によるメロンの品評会を全国規模で実施すれば、全国に普及展開したメロンが集まり、各産地の美味しさ比べが恒例化できるものだと推量する見地を述べました。この通年栽培が可能になった、メロン水耕栽培システムは、町田市内の企業が独自に開発普及展開をしており、町田市が水耕栽培メロンの全国センター、交流拠点となるものでしょう。その各産地のそれぞれの特性を生かしたメロンの競演を提唱、促進していきたいと思っています。

インターン体験記⑨上野竜空

今回は、町田市議会の「議案説明会」を傍聴させて頂きました。内容としては、「令和4年度(2022年度)町田市一般会計補正予算」に関する説明であり、「補正予算」として市内の現状を踏まえたうえで、必要予算として追加計上したものを説明するというものでした。内容を把握すること自体、難しさを感じる部分もありましたが、大変貴重な経験をする事ができました。

また、議題の傍聴だけでなく、議場全体を観察させて頂く機会もありました。当方は、紙面で議事を追う形でしたが、議員は「タブレット端末」が配布されております。使用には改善点は残っているものの、紙に比した利便性を享受していると伺いました。また、議場は厳かな雰囲気でありながら、小さなお子様をお連れの方が傍聴できる部屋が設置されていたり、上階傍聴席には本日用の資料が配置されていたりと、一般市民が傍聴する際の配慮がなされているように感じました。



中央大学4年生 上野竜空(第50期研修生)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年4月末より50期生が研修を開始しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎次期インターンシップの第50期生となりますが、現在、1名参加中、他にも受付中です。